

近年の水害事例や、「台風発生」から「川の氾濫」までの自然現象や防災行動を学び、生徒みずからの安全を確保する行動について学習。

- ◆釧路開発建設部では防災教育を積極的に支援しており、令和3年度は標茶高校1年生及び3年生を対象に、自然災害からみずからの安全を確保するための知識、行動について講義を行いました。
- ◆講義にあたっては、釧路川外減災対策協議会のメンバーである釧路開発建設部、釧路地方気象台、標茶町役場が参加し、各々の役割を活かし理解しやすい内容にて実施しました。

・実施日	令和3年11月30日(火)10時45分～12時20分 北海道立標茶高等学校(1年次生57名、3年次生63名 計120名)
・支援メンバー	釧路開発建設部釧路河川事務所、釧路地方気象台、標茶町役場
・講義内容	釧路開発建設部 ①近年の水害と釧路川について ②「タイムライン」と「防災気象情報」について ③大雨におけるみずからの対応を考える 釧路地方気象台 ○キキクル～大雨、洪水警報の危険度分布と活用 標茶町役場 ○釧路川の氾濫に備える

## 当日の講義状況



自然災害から命を守るためには幼少期からの防災教育が重要であることから、災害対応の実務を担う釧路川外減災対策協議会※では、学校教育における川の防災教育の支援を積極的に行っています。  
 ※釧路川外減災対策協議会：水防災意識社会の再構築に向け、北海道開発局・北海道・釧路管内の市町村等からなる協議会を設置して、減災のための目標を共有し、ハード対策とソフト対策を一体的・計画的に進めている協議会です。